



第一礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		会衆	
プレイズ	「輝かせよ」 「尊きわが主」	会衆	
聖書朗読	創世記22章1~19節 (旧約聖書 p31)	司会	
祈禱		司会	
証			
賛美	新生73	会衆	
メッセージ	「主の山に備えあり」	牧師	
祈禱		牧師	
賛美	225	会衆	
献金			
報告		司会	
頌栄	新生672b	会衆	
祝禱		牧師	

<巻頭言>

「サミルと共に実を結ぶ宣教」

牧師 渡真利彦文

ソロモン王が神殿を建てた時、内部はざくろの装飾で覆われていた。アロンとその子らの祭司の装束にもそれはかたどられていた。(出エジプト記28章)。ユダヤ人が好むそのざくろは、中に多くの実を持つ。繁栄のしるしそのものだった。なつめやしも同様である。房に多くの実をつけることから、祝福と繁栄の象徴となった。

新約聖書時代のユダヤ人の貨幣(コイン)には、ざくろとなつめやしがよく描かれた。ギリシャ人とローマ人は王や皇帝の像を刻んだが、刻んだ像を造らない(十戒の第二戒「あなたはいかなる像も造ってはならない。」)ユダヤ人は、神が与えて下さる恵みと無数の祝福を刻んだのである。

聖書において植物は主の啓示の一つである。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」(ヨハネ15:5)主イエスと私たちの一体感が木に例えられる。また主イエスは大工として木に触れながら生きておられた。やがて木にかけられ、そこで流された血はぶどう酒の内に示されている。今もこれらすべてが私たちに身近であり、どこでも主イエスを思うことがゆるされている。

今週から来週にかけて韓国サミル教会のメンバー19人が来沖し、胡屋教会の姉妹と共に宣教に励む。今回のテーマは「実を結ぶ宣教」を掲げている。ぶどうの木と枝が一体であるように、私たち(サミル&胡屋)も主につながり、一体となって励んでいきたい。



第二礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師

“Come and worship”

「来たれ礼拝へ」



ファミリー礼拝

聖書: マタイ 6:25~34

メッセージ: 「心配しない」